

令和7年11月11日(火)



埼玉県では、11月を「いじめ撲滅強調月間」と定め、いじめ問題の根絶に取り組んでいます。本校でも「いじめで苦しむ子ゼロ」を学校経営方針の重点のひとつとして取り組んでいるところです。このことを踏まえ、今日の学校朝会では、「人に寄り添い、心を大切にする」をテーマに講話をしました。

11月学校朝会 校長講話

砂埃が舞い上がり、永遠に終わらないかのような一面の荒野が続くアフリカの大地に、医療を必要とする人のため、昼夜関係なく患者を診察する人たちがいます。

医師の柴田絢一郎さんは、1971年にアフリカのケニアに行きました。現地の言葉もわからないまま、そして十分な設備や薬も無い中で、ひたすら患者に向き合いました。不安や痛みを和らげるために、手を取って寄り添い、体をさすることしかできなくても、患者の心に寄り添い続けました。ケニアの人たちは、柴田医師を信頼し、感謝の表情を見せました。

柴田医師をモデルにした映画があります。「風に立つライオン」という映画です。困難なことに立ち向かう柴田医師は、困っている人を助けたいという強い思いを持ち続け、その実現のために大きな努力を積み重ねました。自分ができることは何かを常に考え、人のために何をすべきなのかを常に考えますが、思い通りにいかないことがばかりです。それでも、あきらめずに人々に寄り添う柴田医師の姿は、多くの人々に勇気を与えるました。

柴田医師は、こう話しています。

「一日を気持ちよく過ごすには花を飾りなさい。

一年の場合は植物の種を植えなさい。

百年の場合は木を植えなさい。

一生の場合は心を大切にしなさい。」

人に寄り添うのは、何も医師だけではありません。みんな生きていくためには、自分の心を大切にし、他の人の心を大切にしなければなりません。困っているとき、誰かに寄り添ってもらえるととても安心します。話すだけでもいい、話が出来なければ傍にいるだけでも、心は温かくなります。

私は、今とても心配していることがあります。それは、タブレットやスマホをつかって、人の心を傷つけてしまう人がいることです。初めは面白半分かもしれません、タブレットやスマホに心無い言葉や画像を載せてしまうと、それは世界中に広まり消すことができません。

皆さんには、人を傷つけるのではなく、人に寄り添い、心を大切にする人になってほしいと願っています。



明日11月12日は、校長が出張のため、「WEST LIFE 校長の目」は、お休みします。